

令和 6 年 4 月 9 日現在

機関番号：17102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23291

研究課題名（和文）米国におけるIRプロフェッショナル養成課程に関する調査研究

研究課題名（英文）Study on Institutional Research Certificate Programs in America

研究代表者

楊 天立（YANG, TIANLI）

九州大学・インスティテューショナル・リサーチ室・助教

研究者番号：30843453

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：米国IRプロフェッショナル養成課程は初級者向けと中上級者向けの2種類に分類できる。初級者向け養成課程は包括的なプログラムを提供し、2か月程度のもので多く、データ管理と分析、調査設計等の内容がある。一方で、中上級者向けの課程はリーダーシップ育成プログラムが多く、より高度な分析能力のほか、管理能力やコミュニケーション能力も育成目標である。IR分野の学位が設けられておらず、サーティフィケート・プログラム（Certificate Program）が主流であり、コロナ禍以前からオンライン方式を採用している。大学のほかに各州のIR研究協会等も年次総会を開催し、IR関連の学習プログラムを提供する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の米国調査によって、IRの仕事に就いた人の約半数近くは博士学位を取得しており、人文社会学専門出身の人が多く一方で、STEM領域の人でも近年大幅に増えてきている。このような背景があり、米国ではIRプロフェッショナル養成課程は必要不可欠であることは分かった。日本の場合、初級者向けのプログラムを提供している機関は複数ある一方で、中上級者向けプログラムを提供している機関は少ないと思われる。さらに、キャリアアップの視点からみると、継続中かつ長期的に学習する必要がある一方で、そのようなプログラムを提供できる機関はほとんど見当たらない。日本におけるIRプロフェッショナル養成課程を完備することが急がれる。

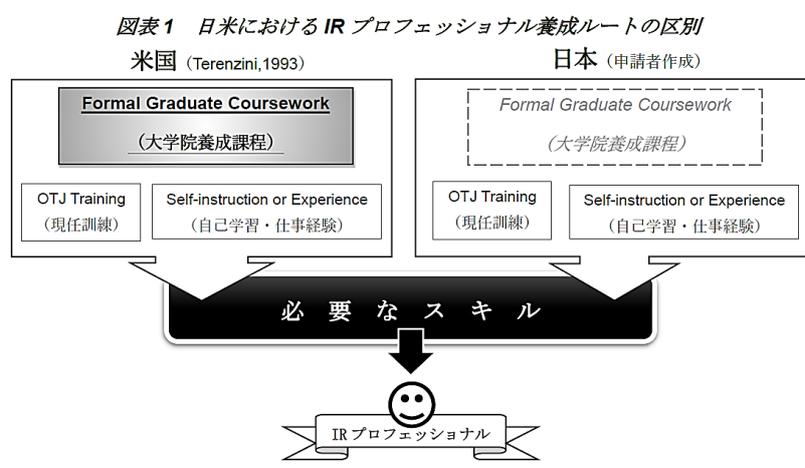
研究成果の概要（英文）：In the US, IR professional training programmes can be divided into two categories: programmes for beginners and programmes for advanced intermediates. Training courses for beginners offer comprehensive programmes, often lasting around two months, and include data management and analysis, survey design, etc. On the other hand, many of the training courses for advanced intermediates are leadership development programmes, which target the development of management and communication skills as well as more advanced analytical skills. There are no degrees in IR, certificate programmes are the norm, and the online method was used since before COVID-19. In addition to universities, IR research associations and others also hold annual meetings and offer IR training programmes.

研究分野：高等教育

キーワード：インスティテューショナル・リサーチ 高等教育

1. 研究開始当初の背景

米国の IR を長年牽引してきた Terenzini 氏は 1993 年に IR プロフェッショナル養成に 3 つのルートがあると主張した。図表 1 のとおり、それぞれ「Formal Graduate Coursework」、「OTJ Training」と「Self-instruction or Experience」であるが、なかでも「Formal Graduate Coursework」、つまり正式な大学院養成課程が最も重要に思われる。一方で、日本における IR プロフェッショナル養成ルートは主に「OTJ Training」と「Self-instruction or Experience」の 2 つがある (楊, 2018)。米国で最も重要視されている大学院養成課程に関して、日本では欠けている。



昨今における日本の IR 研究の大半は、IR そのものの定義と歴史、日本での IR 業務の内容、必要な能力等に関連している。日本における IR 人材の不足を問題視する研究者も少なくない一方、その多くは問題提起の段階にとどまっている (小林, 2016)。日本での大学院 IR プロフェッショナル養成課程の欠如は IR 人材の不足問題に繋がり、今後日本でも IR 養成の大学院課程の必要性が高くなると予測できる。つまり、大学院 IR プロフェッショナル養成課程の日本モデルが必要となり、それを構築する際に、米国モデルを参考する需要も考えられる。具体的には、IR プロフェッショナル養成課程はどんな人を対象にしているか、入学者にどんなカリキュラムを提供するか、修了者はどういう知識・能力を取得できるか、という複数の疑問を解決した上で、米国モデルを明かにする。

2. 研究の目的

本研究は米国における IR のプロフェッショナル養成課程の実態に鑑み、日本における IR 人材育成の進展に寄与するという目的から、米国 IR 協会 (Association for Institutional Research, 以下 AIR) が推奨する 7 つの大学 (図表 2) の IR プロフェッショナル養成課程を対象に調査を実施するものである。これまで不明確だった養成課程の実態を明らかにすることによって、米国における IR プロフェッショナル養成の共通理解を探り出し、養成課程の基本モデルを明確にすることと日本における IR 人材育成の進展に寄与することを目的とする。

図表2 調査対象の7大学

1	Arizona State University
2	Boston College
3	Florida State University
4	Indiana University
5	Pennsylvania State University
6	University of Illinois at Chicago
7	University of Michigan

3. 研究の方法

そのために、インプット（入学資格）、プロセス（カリキュラム、授業方式、教育目標）とアウトプット（修了認定）の3段階計5項目（図表3）に関する調査を実施する

図表3 7大学に対する調査内容

調査項目	調査内容	
入学資格	入学者に対する学歴・学力・その他の要求	
カリキュラム	①課程年限 ②科目構成（必修科目と選択科目の比率、科目内容等） ③教材 ④授業時間数 ⑤その他	
授業方式	オンライン授業の割合	
教育目標	習得を期待する能力・スキル	
修了認定	①修了条件 ②修了証の種類（資格または学位）	

本調査研究は4つのステージによって構成される（図表4）。Stage1では事前調査を行い、現地でしか入手できない情報項目を把握し、Stage2の現地・オンライン調査を行い、必要なデータや資料を収集した上でStage3の分析を行う。これらのステージによって、以下の問題点を明らかにする。

- ・インプット段階：誰が対象か。⇒入学者の特性
 - ・プロセス段階：一般課程と何が違い、どこが特徴か。⇒入学者の特性に応じた教育
 - ・アウトプット段階：どんな教育成果が期待できるか。⇒一般課程で取得できない知識と能力（IRプロフェッショナル養成）
- ⇒最終的には米国におけるIRプロフェッショナル養成課程のモデルを明確にする。

図表4 本研究の実行手順

項目	内容
Stage1 調査準備	◆調査交渉 ◆実施日決定 ◆事前調査 ◆質問票作成
Stage2-1 調査実施	◆現地・オンラインインタビュー調査（計7大学） ◆現地大学関連の資料調達と情報収集
Stage2-2 調査結果の整理	◆インタビュー内容の文字起こし ◆データ、資料、その他の情報の整理と分類
Stage2-3 追加調査実施	◆調査漏れ等あった場合の対策
Stage3 調査結果の分析	◆各大学の共通点・相違点・特徴を探り出す ◆実態把握 ◆モデル可視化
Stage4 研究成果の発表・公開	◆論文執筆 ◆学会発表 ◆その他

4. 研究成果

本研究の米国調査によって、IR の仕事に就く人の半数近くは博士学位を取得しており、人文社会専門出身の人が多い一方で、STEM 領域の人も大幅に増えてきている。このような背景もあり、米国では IR プロフェッショナル養成課程は必要不可欠であることは分かる。

米国 IR プロフェッショナル養成課程は初級者向けと中上級者向けの 2 種類に分類できる。初級者向け養成課程は包括的なプログラムを提供し、2 か月程度のもが多く、データ管理と分析、調査設計等の内容がある。一方で、中上級者向けの課程はリーダーシップ育成プログラムが多く、より高度な分析能力のほか、管理能力やコミュニケーション能力も育成目標である。IR 分野の学位が設けられておらず、サーティフィケート・プログラム (Certificate Program) が主流であり、コロナ禍以前からオンライン方式を採用していた。大学のほかに各州の IR 研究協会等も年次総会を開催し、IR 関連の学習プログラムを提供する。

日本の場合、初級者向けのプログラムを提供している機関は複数ある一方で、中上級者向けプログラムを提供している機関は少ない。さらに、キャリアアップの視点からみると、継続中かつ長期的にプログラムを提供できる機関は極めて少ない。日本における IR プロフェッショナル養成課程を完備することが急がれる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Yang Tianli
2. 発表標題 留学生博士課程進学ルートに関する調査研究
3. 学会等名 第29回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 楊天立
2. 発表標題 大学におけるIR 情報可視化の試み BI ツールの活用事例
3. 学会等名 第28回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yang Tianli
2. 発表標題 Institutional Research and Evidence-Based Policy Making in Japan: A Case Study of National Universities
3. 学会等名 Annual Conference of Chinese Association for Higher Education (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 楊天立
2. 発表標題 BIツールを活用したIR業務に関する情報の可視化
3. 学会等名 日本学習分析学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------